

沖縄公庫 1億円出資

うるま市ナノシステム社に

精密金型の受託製造支援

沖縄振興開発金融公庫（譜久山當則理事長）は27日、半導体製造装置や検査装置の開発・製造を手掛けるナノシステムソリューションズ（うるま市、芳賀一実社長）に、1億円の出資を実行したと発表した。

同社は半導体製造装置「マスクレス露光装置」で蓄積した技術力を生かして、半導体

や液晶ディスプレイを製造する際に必要な精密金型の受託製造を開始する。小ロットの需要に対して低コストと短期間での納品を実現し、中堅メーカーや研究機関からの発注も見込む。

芳賀社長は「従来対応できなかった、精密で低廉な金型市場を開拓する。中国、台湾などアジアを中心に展開していく」と述べた。

出資金は製造ライン増設の設備資金、運転資金に充てる。沖縄ものづくり振興ファンド有責任事業組合とみずほキャピタルも協調出資する。

1億円出資を受け、意欲を示す芳賀一実ナノシステムソリューションズ社長（中央）ら。27日、那覇市・沖縄振興開発金融公庫



精密金型受託製造へ

ナノシステム 沖縄公庫から1億円

沖縄振興開発金融公庫は4月27日、半導体製造装置の開発・製造を手掛けるナノシステムソリューションズ(芳賀一実社長)に、新事業創出促進出資制度に基づき約1億円出資したと発表した。同社は液晶ディスプレイなどを製造する際に用いる精密金型の受託製造(ファウンドリ事業)に乗り出す。2015年5月期



の売上高を3億円程度と想定し、アジアの大手電機会社と同社が持つ高い技術力を売り込む。

同社が製造する精密金型は、液晶ディスプレイ内の反射効率を高くすることで、消費電力の大幅な削減に成功した。大量生産による販売コストの低減化などが図られるという。金型の製造は同社が生産する「マクレス露光装置」の技術を応用することで実現。製造コストを下げ、中堅以下のメーカーや研究開発機関による発注も見込む。

同社が製造する精密金型は液晶ディスプレイだけではなく、スマートフォンなどの表面加工にも応用できるといふ。芳賀社長は写真中央は「アジアを中心に

受託製造事業を展開する」と話した。